

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	スープレン吸入麻酔液	劇
(英名)	Suprane	
(規格・含有量)	1mL 中、有効成分デスフルラン 1mL を含有	
(一般名)	デスフルラン	
(メーカー名)	バクスター株式会社	
【薬価収載日】	2011年7月	
【薬価】	43.70円/mL	
【薬効コード】	871119	
【薬効分類名】	全身吸入麻酔剤	
効能・効果	全身麻酔の維持	
用法・用量	通常、成人には、デスフルランとして3.0%の濃度で開始し、適切な麻酔深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら、濃度を調節する。通常、成人では、亜酸化窒素の併用の有無にかかわらず、デスフルランとし7.6%以下の濃度で外科的手術に適切な麻酔深度が得られる。	
禁忌	①本剤又は他のハロゲン化麻酔剤に対する過敏症の既往歴のある患者 ②悪性高熱の既往歴又は血族に悪性高熱の既往歴のある患者	
相互作用	他剤作用増強 アドレナリン製剤(アドレナリン、ノルアドレナリン等)、筋弛緩剤(パンクロニウム臭化物、ベクロニウム臭化物、スキサメニウム塩化物水和物等) 本剤他剤作用増強 中枢神経系抑制剤(ベンゾジアゼピン系薬剤、オピオイド鎮痛剤等)	
副作用	重大な副作用 悪性高熱、高カリウム血症、重篤な不整脈、横紋筋融解症、ショック、アナフィラキシー様症状、肝機能障害、黄疸 その他 悪心・嘔吐、ビリルビン増加など	

(薬品名)	エルカルチン錠 300mg	
(英名)	L-Cartin tablets	
(規格・含有量)	300mg/1錠 1錠中、レボカルニチン塩化物 300mg を含有	
(一般名)	レボカルニチン塩化物錠	
(メーカー名)	大塚製薬	
【薬価収載日】	2007年6月	
【薬価】	1錠:293.70円	
【薬効コード】	873999	
【薬効分類名】	レボカルニチン製剤	
効能・効果	カルニチン欠乏症	
用法・用量	通常、成人には、レボカルニチン塩化物として、1日1.8~3.6gを3回に分割経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。 通常、小児には、レボカルニチン塩化物として、1日体重1kgあたり30~120mgを3回に分割経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
副作用	その他 食欲不振、下痢、軟便、腹部膨満感、顔面浮腫、血尿、貧血など	

(薬品名)	パキシル CR 錠 12.5 mg	劇
(英名)	PaxilCR tablets	
(規格・含有量)	12.5mg/1錠 1錠中、パロキセチン塩酸塩水和物14.25mg(パロキセチンとして12.5mg)を含有	
(一般名)	パロキセチン塩酸塩水和物徐放錠	
(メーカー名)	グラクソ・スミスクライン	
【薬価収載日】	2012年6月	
【薬価】	1錠:105.60円	
【薬効コード】	871179	
【薬効分類名】	選択的セロトニン再取り込み阻害剤	
効能・効果	うつ病・うつ状態	
用法・用量	通常、成人には1日1回夕食後、初期用量としてパロキセチン12.5mgを経口投与し、その後1週間以上かけて1日用量として25mgに増量する。なお、年齢、症状により1日50mgを超えない範囲で適宜増減するが、いずれも1日1回夕食後に投与することとし、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として12.5mgずつ行うこと。	
警告	海外で実施した7～18歳の大うつ病性障害患者を対象としたプラセボ対照試験において有効性が確認できなかったとの報告、また、自殺に関するリスクが増加するとの報告もあるので、本剤を18歳未満の大うつ病性障害患者に投与する際には適応を慎重に検討すること。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者 ③ピモジドを投与中の患者	
相互作用	本剤他剤副作用増強 MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩、エフピー)、セロトニン作用を有する薬剤(炭酸リチウム、選択的セロトニン再取り込み阻害剤、トリプタン系薬剤(スマトリプタン等)、セロトニン前駆物質(L-トリプトファン、5-ヒドロキシトリプトファン等)含有製剤又は食品等、トラマドール、フェンタニル、リネゾリド、セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort, セント・ジョーンズ・ワート)含有食品等) 他剤作用増強 フェノチアジン系抗精神病剤(ペルフェナジン)、リスペリドン、三環系抗うつ剤(アミトリプチリン塩酸塩、ノルトリプチリン塩酸塩、イミプラミン塩酸塩)、抗不整脈剤(プロパフェノン塩酸塩、フレカイニド酢酸塩)、メトプロロール酒石酸塩、アトモキセチン、ワルファリン 他剤作用減弱 タモキシフェン、ジゴキシン 本剤作用減弱 フェニトイン、フェノバルビタール、カルバマゼピン、リファンピシン、ホスアンプレナビルとリトナビルの併用時 本剤作用増強 キニジン、シメチジン、アルコール 他剤副作用増強 止血・血液凝固を阻害する薬剤(非ステロイド性抗炎症剤、アスピリン、ワルファリン等)、出血症状の報告のある薬剤(フェノチアジン系抗精神病剤、非定型抗精神病剤、三環系抗うつ剤等)	
副作用	重大な副作用 セロトニン症候群、悪性症候群、錯乱、幻覚、せん妄、痙攣、中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、多形紅斑、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)、重篤な肝機能障害 その他 傾眠、頭痛、嘔気、口渇、肝機能検査値異常、発汗、性機能異常等	

削除医薬品通知

●8月1日より

マーカイン注 0.25%	削除
ハイゼット錠 50 mg	削除
凍祥月	削除
パキシル錠 10 mg	削除
アルマール静 10 mg	削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
アロチノロール塩酸塩錠 10mg 「DSP」	アルマール錠 10mg

規格追加通知

今回採用医薬品
● <u>8月1日より</u> アンテベートローション 0.05% 10g

適応追加通知

イメンドCap 125 mg 80 mg	抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む) 他の制吐剤との併用において、通常、成人及び12歳以上の小児にはアプレピタントとして 抗悪性腫瘍剤投与1 日目は125mg を、2日目以降は80mgを1日1回、経口投与する。
レニベース 5 mg	1. 本態性高血圧症、腎性高血圧症、腎血管性高血圧症、悪性高血圧 2. 下記の状態で、ジギタリス製剤、利尿剤等の基礎治療剤を投与しても十分な効果が認められない場合 慢性心不全(軽症～中等症) <小児> 通常、生後1ヵ月以上の小児には、エナラプリルマレイン酸塩として0.08mm/kmを1 日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
ネキシウムCap 20mg	低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを1日1回経口投与する。
リリカ Cap 25 mg 75 mg	線維筋痛症に伴う疼痛 通常、成人には初期用量としてプレガバリン1日150mgを1日2回に分けて経口投与し、その後1週間以上かけて1 日用量として300mgまで漸増した後、300～450mgで維持する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高用量は450 mgを超えないこととし、いずれも1日2回に分けて経口投与する。
シムビコートタービュヘイラー 60 吸入	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入 β 2刺激剤の併用が必要な場合) 通常、成人には、維持療法として1回1吸入(ブデソニドとして160 μ g、ホルモテロールフマル酸塩水和物として4.5 μ g)を1日2回吸入投与する。なお、症状に応じて増減するが、維持療法としての1日の最高量は1回4吸入1日2回(合計8吸入:ブデソニドとして1280 μ g、ホルモテロールフマル酸塩水和物として36 μ g)までとする。 維持療法として1回1吸入あるいは2吸入を1日2回投与している患者は、発作発現時に本剤の頓用吸入を追加で行うことができる。本剤を維持療法に加えて頓用吸入する場合は、発作発現時に1吸入する。数分経過しても発作が持続する場合には、さら

	<p>に追加で1吸入する。必要に応じてこれを繰り返すが、1回の発作発現につき、最大6吸入までとする。維持療法と頓用吸入を合計した本剤の1日の最高量は、通常8吸入までとするが、一時的に1日合計12吸入（ブデソニドとして1920μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物として54μg）まで増量可能である。</p>
エパデール S 900	<p>高脂血症 通常、成人1回900mgを1日2回又は1回600mgを1日3回、食直後に経口投与する。ただし、トリグリセリドの異常を呈する場合には、その程度により、1回900mg1日3回まで増量できる。</p>